

## 豪雨あとの信州・安曇野へ

私たちがシャロムヒュッテを訪ねたのは、異例の長梅雨がまだ明けない七月下旬。少し前のニュースでは、長野県内で、豪雨のために土砂崩れや堤防決壊などの被害が起きたことを伝えていた。

松葉杖姿で出迎えてくれたオーナーの臼井健二さんが骨折したのも、豪雨が原因だったと

いう。山菜採りに山へ出かけたところ、崖崩れが起き、バスケットボール大の岩が太ももに直撃したのだ。痛みが残る足をさりながらも、やはり気になるのは、夏の畠の様子。



[生き物の宝庫]

自然農の畑には、鳥や虫がたくさん訪れる。それは、自然界そのものの営みを大切にしているから。当然、作物を食べられることもあるけれど、それもよし。とれた分だけいただければいいのだから。



[芽かき・誘引]

トマトは枝と葉の間から出てくるわき芽を小さなうちにかき取る。大きなわき芽はそのまま土に差すと再び生長。誘引は紐を8の字に回して枝側の輪はゆったり、支柱側は二重巻きにしてしっかりと。



[収穫]



春の取材時に植え付けたジャガイモを収穫。ちょっと小ぶりだけど、風味豊かで美味しい！自然農の野菜は、保存性が高いのも特徴。シャロムヒュッテの五日市保之さんが、早速お料理。



[互いの生長を助け合う]

トウモロコシとインゲンとカボチャは仲良しトリオ。インゲンの根粒菌はトウモロコシの栄養となり、トウモロコシはインゲンの支柱に。日陰を好むカボチャは、トウモロコシの木陰で草を抑える。



草が生える自然農の畑は、土砂崩れしない

**豪雨の後でも崩れない畑**  
長野県を襲った豪雨の影響が、自然農の畑ではまったく見られない。隣家の畑より一段高くなっているシャロムの畑だが、草の根が張っているため、まったく土崩れが起きなかつた。また、根が水の抜け道になるので水はけが良く、土に水がたまることもなかつた。

**草が育つ＝豊かな畑**  
自然農の畑にとつて、草は邪魔なものではなく、それが生えることで豊かな畑だと知ってくれる存在。その草は肥料にもなるのだから。敷き草のおかげでミニズがいっぱいの土からは、大きな実をたくさんは採れないけれど、毎年常に、通常の畑の60～70%は収穫できる。それで十分。

[ソバの種蒔き]



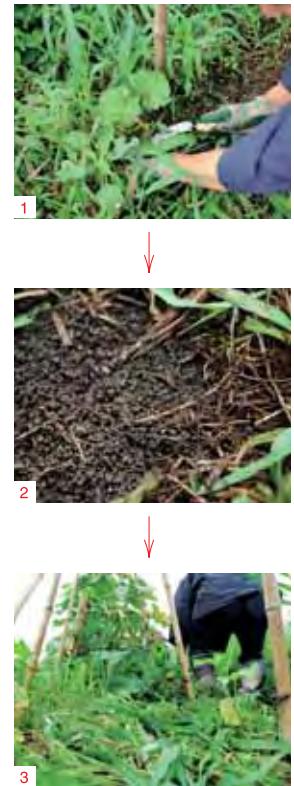
1.ソバは肥料がなくても育ち、瘦せた土地向き。まずは草が茂っている中に種を蒔く。2.草を根元から刈る。3.刈った草をその場に敷けば、種はちゃんと土に着地する。ソバは草よりも生長が早く、草を抑えることができる。

[ダイコンの点蒔き]



1.ダイコンの種を蒔く場所だけ草を刈る。直径15cm程度の円形が目安。周りの草はダイコンの生長を邪魔しそうなものだけ刈る。2.表土を1cmほどかき分けで既に落ちている草の種を取り除き、土を平らにする。3.円の中に種を4粒ほど蒔く。4.近くを掘って種が混ざっていない土を取り出し、種の2~3倍の高さになるよう上からかける。5.手のひらで平らにする。6.刈った草を敷く。点蒔きは、少量でもいいから確実に収穫したいときにおすすめの方法。

[草の刈り方]



1.草刈りは頻繁に行うが、あまり神経質にならずに、野菜と草丈が均衡して野菜が負けそうになったら刈る。2.刈った後の土を見ると、コロコロと小さく粒になっている。これが団粒構造。3.刈った草は同じ場所に敷いておく。



生氣溢れる畠。左は種取り用に咲かせているニンジンの花。誘引用の麻ひもも準備OK!

草刈りは頻繁に行うが、草刈りで特に大切な時期がある。それは、安曇野では7月中旬の約2週間。冬草が終わり夏草が出てくる時期で、ここでしっかりと草を刈つて野菜の種を蒔くと、夏草は出だしをくじかれ、その間に野菜が根を張り、草の生長を抑えられる。

今回のまとめ

